

菊の挿し芽の時のアグリボEXの使い方

1. **効能**： IBA剤（ホルモン剤）にアグリボEXを混合し、菊の挿し穂を処理してから挿し芽すると、発根数が増え根の長さがそろう。（移植後の生育が旺盛になり、かつ安定する。）
- ◆ホルモン剤（農薬）の使用を避けたい場合は、アグリボEX（肥料）のみでも発根促進が可能（方法⑤または方法⑥）。

2. **使い方**： 次の方法①～⑥のいずれかを選択してください。

IBA液剤（0.4%）を使って浸漬する場合（続けて“だんご挿し”する場合は、薬剤を調合しないで“だんご挿し”する。）

	薬剤希釈倍率		処理方法	薬液の調製法の一例（配合割合）		
	IBA液剤	アグリボEX		水	IBA液剤	アグリボEX
方法①	750倍	1,000倍	挿し穂基部を、薬液に3時間漬ける。（水揚げ）	3ℓに対して	4ml	3ml
方法②	150倍	250～500倍	挿し芽の直前に、挿し穂全体を薬液に10秒間漬ける。	3ℓに対して	20ml	6～12ml
方法③	2倍	50～100倍	挿し芽の直前に、挿し穂基部を薬液に10秒間漬ける。	100mlに対して	100ml	2～4ml

備考：社内試験の結果では、方法③の結果が最も良かった。

IBA粉剤（0.5%）を使って“だんご挿し”する場合（水揚げは、“水”だけのこと。）

	処理方法	だんご処理液の調製法の一例（配合割合）			
		鹿沼土（粉）	IBA粉剤	アグリボEX	水
方法④	<ul style="list-style-type: none"> ● 鹿沼土の粉に所定量の薬剤（右表参照）を混ぜたものに少しずつ水を加え、適当な柔らかさになるまで溶く。（処理液調製） ● 挿し芽の直前に、挿し穂の基部を処理液に漬け、パーミキュライト微粉をまぶして“だんご挿し”する。 	200ml (80～100g) に対して	10g*	2～4ml	100～120ml

方法④：* IBA粉剤の代わりに、**IBA液剤**を使って“だんご挿し”する場合は、配合量は12.5mlとし、加える水を少なくする。

アグリボEXのみで発根促進させる場合（“だんご挿し”する場合は、薬剤を調合しないでだんご挿しする。）

方法⑤：挿し芽前に、挿し穂基部をアグリボEX希釈液に浸漬する。（10倍希釈液で5分、または100倍希釈液で1時間）

方法⑥：（高温期で、方法⑤で腐れが出やすい場合）挿し芽翌日及び4日後の2回、アグリボEXの50倍希釈液を葉面散布する。

3. 挿し芽後の管理

- 挿し芽後の灌水や日照管理は、通常通り。
- 但し、通常より発根が速まるので、根が伸び過ぎないように注意する。

4. 注意事項

- 調製した浸漬液やだんご処理液は、その日のうちに使い切る。（雑菌繁殖）
- 残った処理液は、挿し芽床土には入れない。（薬害・雑菌繁殖）
- 残った処理液は、ホルモン剤で他の植物を汚染しないように注意し、土に埋める等して適切に処分する。